

十津川村女性活躍・男女共同参画プラン

～助けあい、支えあい、分かちあう村づくりの実践～



目次・はじめに

【目次】

- はじめに P. 1
- 十津川村の基本情報 P. 2
- 十津川村の男女共同参画の現状 P. 3
- 十津川村の「魅力と課題」分析 P. 4
- 計画の理念と目標 P. 5
- 重点目標と施策の方向性 P. 6
- 計画の推進体制 P. 7

(参考資料)

- 1. 計画策定の経緯 P. 9
- 2. 計画策定会議での主なご意見 P. 10
- 3. 村民アンケート結果 P. 11

—はじめに—



十津川村長 更谷慈穂

十津川村は、自然豊かな森林資源と、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や日本初の「源泉かけ流し宣言」を行った温泉など、観光資源に恵まれています。一方、全国に先んじて1960年代から人口減少が始まったことに加え、急峻な地形と広域に分散した集落・人口分布は、産業や社会インフラの近代化においては不利とされてきました。

しかしながら、古くから自主・自立の気風に溢れ、深い山あいに住むという現実を受け入れ、ともに助けあい、支えあい、分かちあう精神が脈々と先人から受け継がれています。本プランは持続可能な村づくりを目指すため、特に女性の活躍にスポットをあて、多様な価値観が認められる社会を実現させるため「十津川村女性活躍・男女共同参画プラン」を策定します。

【本計画の位置づけ】

- 本計画は以下3点を一体的に策定するものとします。
 - 「男女共同参画社会基本法」第14条第3項に基づく市町村男女共同参画計画
 - 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」第6条第2項に基づく市町村推進計画
 - 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」第2条の3第3項に基づく市町村基本計画

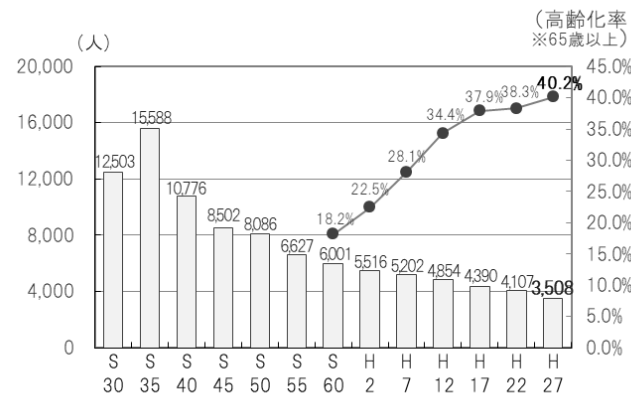
【本計画の期間】

- 本計画の期間は令和2年度～6年度の5年間とします。

十津川村の基本情報

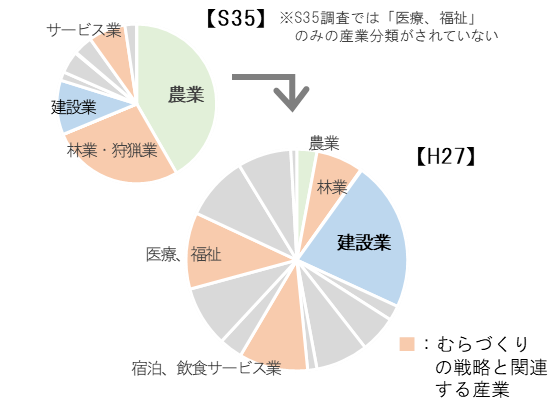
- 東西33.4km・南北32.8kmにまたがる面積672.38km²の十津川村は、奈良県のおよそ5分の1の広さを占め、村としては日本一の広さを持つことが大きな特徴で、その96%が山林です。
- 十津川村の人口は、昭和35(1960)年の15,588人をピークに減少し、平成27年には3,508人(ピーク時のおよそ1/4)となりました。しかし、生産年齢人口(15歳～64歳)の割合は49.8%(平成30年10月)と、県内の12村のなかでは2番目の高さであり、合計特殊出生率も1.49%(H20-24ベイズ推定値)と県内の市町村では2番目に高い状態です。また、村内に高校があることが定住・移住にプラスとなることもあり、子ども・若者が比較的多い村であるといえます。
- 十津川村の産業は、幹線道路である国道168号線とそれに並行して流れる十津川に関する道路や河川の工事にあたる人の割合が多いことにより、建設業の従事者が1位(403人、35.1%)であり、2位は医療・福祉(252人、21.9%)、3位は温泉等の観光資源に恵まれたことから宿泊業・飲食サービス業(189人、16.4%)となっています。

○ 約50年前から人口減少・高齢化が進行



【資料：国勢調査】
第5次十津川村総合計画(H29.3)より

○ 産業においてはその構造の変化が今後も見込まれる



【資料：奈良県統計年鑑(就業者数)】

第5次十津川村総合計画(H29.3)より

生産年齢人口(15~64歳)割合

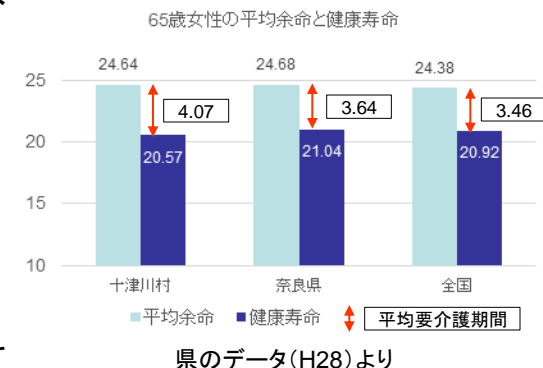
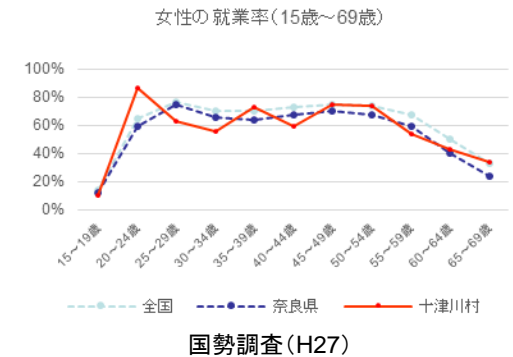
| 順位 | 市町村名 | 割合(%) |
|-----|------|-------|
| 1 | 天理市 | 61.54 |
| 2 | 香芝市 | 60.48 |
| ... | ... | ... |
| 25 | 明日香村 | 50.53 |
| 26 | 宇陀市 | 50.48 |
| 27 | 十津川村 | 49.77 |
| 28 | 野迫川村 | 48.58 |
| 29 | 下市町 | 48.08 |
| 30 | 上北山村 | 46.74 |

| 順位 | 市町村名 | 割合(%) |
|----|------|-------|
| 31 | 山添村 | 44.98 |
| 32 | 曾爾村 | 44.72 |
| 33 | 下北山村 | 43.45 |
| 34 | 吉野町 | 42.77 |
| 35 | 天川村 | 41.71 |
| 36 | 黒滝村 | 39.14 |
| 37 | 御杖村 | 38.64 |
| 38 | 東吉野村 | 38.29 |
| 39 | 川上村 | 34.74 |

奈良県推計人口年報(H30.10.1時点)

十津川村の男女共同参画の現状について

- 奈良県の女性の就業率は62.8%（20～64歳、H27国勢調査）ですが、十津川村は県よりも低い61.8%となっています。要因として建設業や林業など女性が活躍しにくい産業が村の主要産業であるとともに、村外においても車での通勤が可能な範囲に大きな働き場所がないことなどが考えられます。
- 広い面積をカバーするため、保育所は村内に3か所、利用者（児童数）は66名となっています。（令和2年1月時点）利用は2歳（小原保育所は1歳6ヵ月）からですが、待機児童もいないため、申し込めばすぐに預けて働ける状態です。
- 村役場管理職における女性比率は25%（5/20人）と、県内市町村平均21.5%に比べて高く（H31年4月）、地域の消防団においても女性の進出が進んできました（団員の女性比率9.5%、H31年4月）。また、地域活動においては婦人会が自主イベントを行うなど活動が盛んであること等、女性の活躍が進んでいる分野が数多くあります。
- 一方で、村議会議員や自治会長（総代）には女性がおらず（令和元年10月時点）、意思決定の場への女性の進出が十分とは言えない現状もあります。
- 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という固定的性別役割分担意識は県では、男性51.8%女性48.2%が肯定的（H26、県調査）ですが、村の調査結果（R元年度）では、男性51.4%女性45.1%が肯定的と県とほぼ同程度という結果が出ています。
- 都市部に比べ、近隣の人々と顔が見える昔ながらの地域コミュニティが多く存在していることや風水害や土砂災害をはじめとする自然災害にたびたび見舞われることもあり、高齢者や子どもを見守り、男女を問わずに地域で相互に協力し合う風土が残っています。
- 女性の健康寿命は85.57歳で県平均より短く、平均要介護期間は県平均よりも0.43歳長くなっています。（平成28年）



十津川村の「魅力と課題」分析

➤ 住民のご意見や各種データ分析等から検討を重ね、十津川村の魅力と課題を整理しました。

今後必要な視点

男女共同
参画の意
識・女性
の参画

魅力

- ✓ 男女にかかわらず、地域全体で相互協力していく風土がある
- ✓ 「婦人会」の活動が盛んで、地域活動で女性が活躍している
- ✓ 消防団を中心とした防災活動に女性の進出がみられる

課題

- ✓ 女性の自治会長(総代)がない
- ✓ 女性議員がない

男女共同参画の意
識づくりと、女性の参
画促進

女性の活
躍・両立
支援

魅力

- ✓ 広いエリアをカバーするよう3カ所の保育所があり、バス利用が可能。
- ✓ 保育園～中学校の給食無償化や医療費助成(中3まで)等、経済支援が充実している
- ✓ 保育所・放課後子ども教室での預かりがあり、待機児童もいない
- ✓ 生涯を通じて農業などの仕事・役割がある
- ✓ 役場の女性管理職比率が高い
- ✓ 移住希望者へのPRや、受け入れ体制が充実している

課題

- ✓ 女性の就業率62.8%(20歳～64歳、H27国勢調査)が全国平均・奈良県の値より低い
- ✓ 女性が働きやすく、魅力を感じるような職場が自宅近くに少ない
- ✓ 産婦人科・小児科がなく、また、同世代の子どもが近所に少ないなど、身近に相談できる環境が整っていない
- ✓ 男性の家事・育児参画を意識面でも、行動面でもより進める必要がある

働き続けたい女性の
希望を叶える就労環
境の整備、両立支援
の充実

女性の健
康・安全

魅力

- ✓ 顔の見える地域コミュニティの存在が犯罪・暴力の抑止力となっている
- ✓ 役場専門職や村営診療所の医師が村全体に対して、きめ細やかな健康管理を実施。

課題

- ✓ コミュニティの距離が近いいため、本当の悩みがあった場合に、それが見えにくく、相談や支援を受けにくい
- ✓ 漬物を食べる頻度が吉野郡の中でも高く、塩分摂取が多くなる食習慣
- ✓ 車社会のため運動習慣のない人が多い。

心身の安心・安全の
ための相談・連携体
制の整備

計画の理念と目標

- 村の「魅力と課題」を踏まえて、以下のとおり基本理念と基本目標を定めます。

基本理念

男女がともに尊重しあい、
心身ともに健やかに暮らせる村づくり

基本目標

1

みんなで学ぼう、考えよう 男女共同参画のこと

村民一人ひとりが男女共同参画の視点に触れ、考え、実行できる村づくりを行います。

2

男女がともに自立して生きがいをもとう

多様性を認め合い、村民全員が性別にかかわらず自らの希望する道を選ぶことができ、生きがいを持って住み続けられる村を目指します。

3

だれもが安全で安心な村づくり

男女共同参画の視点から、村民が心身共に健康な村づくりを進めます。

<数値目標> 固定的性別役割分担意識に肯定的な人の割合を減らす

重点目標と施策の方向性

➤ 目標達成に向けた施策の方向性は以下のとおりです。

基本目標

重点目標

施策の方向性

1
みんなで学ぼう、
考えよう
男女共同参画のこと

1-1.男女共同参画の意識づくり

- 役場内における男女共同参画研修等の実施
- 村民に対する様々な機会での男女共同参画の啓発活動の実施（男女共同参画週間等での啓発）

1-2.男女の意見が反映する村づくり

- 村議会、村役場における女性の登用の促進
- 審議会、自治会等、地域の意思決定の場への女性の参画促進
- 男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立

2
男女がともに自立して
生きがいをもとう

2-1.女性の活躍促進

- 6次産業化や起業など、女性の新たな就労・活躍の場の創出
- 多様な保育ニーズへの対応と子育て女性の就労支援
- 子育て家庭への経済的支援の充実

2-2.生涯を通じて、男女とも生きがいを持てる暮らし

- 男性の家事・育児への参画の推進
- 高齢者の生きがいづくり
- 移住・定住施策の推進

3
だれもが安全で安心な
村づくり

3-1.心身の健康づくり

- 定期健康診断、がん検診の受診促進
- 生活習慣の改善に向けた正しい知識の普及、機会の提供
- 県相談窓口・保健師等との連携
- すべての子どもの実態把握

3-2.女性に対する暴力の防止

- 様々な機会での暴力防止啓発活動の実施
- 相談窓口の周知

計画の推進体制

【役場内の推進体制】

- 役場内の職員一人ひとりが男女共同参画の理念を認識することに努め、推進体制を明確にします。また、役場内での連携を図り、男女共同参画に関する施策の推進を図ります。

【村民との連携体制づくり】

- 積極的に広報・啓発活動を実施し、事業者・関係機関・各種団体等・村民との連携及び協力体制づくりに努めます。



参考資料

1. 計画策定の経緯
2. 計画策定会議での主なご意見
3. 村民アンケート結果

参考資料1 計画策定の経緯

- 本計画は、奈良県が実施する「地域に身近な男女共同参画計画策定支援事業」の一環として、村・県・有識者が協力して策定に当たりました。

キックオフミーティング
(令和元年6月12日)

- ・ 村職員と県職員と有識者が集まり、計画策定の目的や進め方を共有
(出席有識者: 音田昌子氏・梅田直美氏(奈良県男女共同参画県民会議委員))



中間検討会
(令和元年10月21日)

- ・ 村の魅力や課題を調査(村総合計画、村政報告書、各種統計データ等から)
- ・ 計画に盛り込むべき項目の検討を開始
- ・ アンケート実施の調整



計画策定会議
(令和元年11月20日)

- ・ 村の魅力や課題の確認、計画の作成方針の検討
(出席有識者: 音田昌子氏)

- ・ 村民アンケート調査の実施(次期総合戦略に関するアンケートと合わせて)
- ・ 計画素案作成



計画の完成
(令和2年3月3日)

- ・ 計画素案について、村民代表を含めた検討
(出席有識者: 音田昌子氏)

- ・ 村民の意見とりまとめ
- ・ 計画案の作成

【計画策定会議メンバー】

- ・ 区長会 会長 藤澤 豊
 - ・ 婦人会 会長 中平 喜代
 - ・ 木工家具協議会 中山 直規
 - ・ デザイナー 中山 由佳
 - ・ 株式会社 松尾組 東 千春
- 事務局: 十津川村住民課

参考資料2 計画策定会議での主なご意見

- 十津川村は人があたたかく交流も多いのいいところと感じる。
- 男女共同参画というのは理解できるが、特に年配の人は生活を急に変えられるわけではない部分がある。
- かつて村に来たときに婦人会のおかげで活動も人脈も広がりありがたかった。いまは会員も減ってきている。
- 村内には女性が働きたいと思える魅力的な仕事が少ないのではないかと思う。
- 地区による部分もあるが、移住者に対しては干渉しすぎずかといって受け入れていないわけでもなく、いい距離感がある。
- 今の30代ぐらいは男性が子育てに積極的。
- 計画を作ったあとに、どのように村民向けのPRをしていくかが大切。

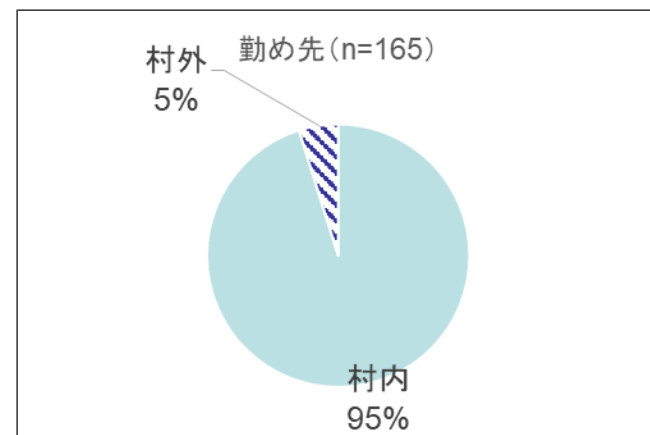
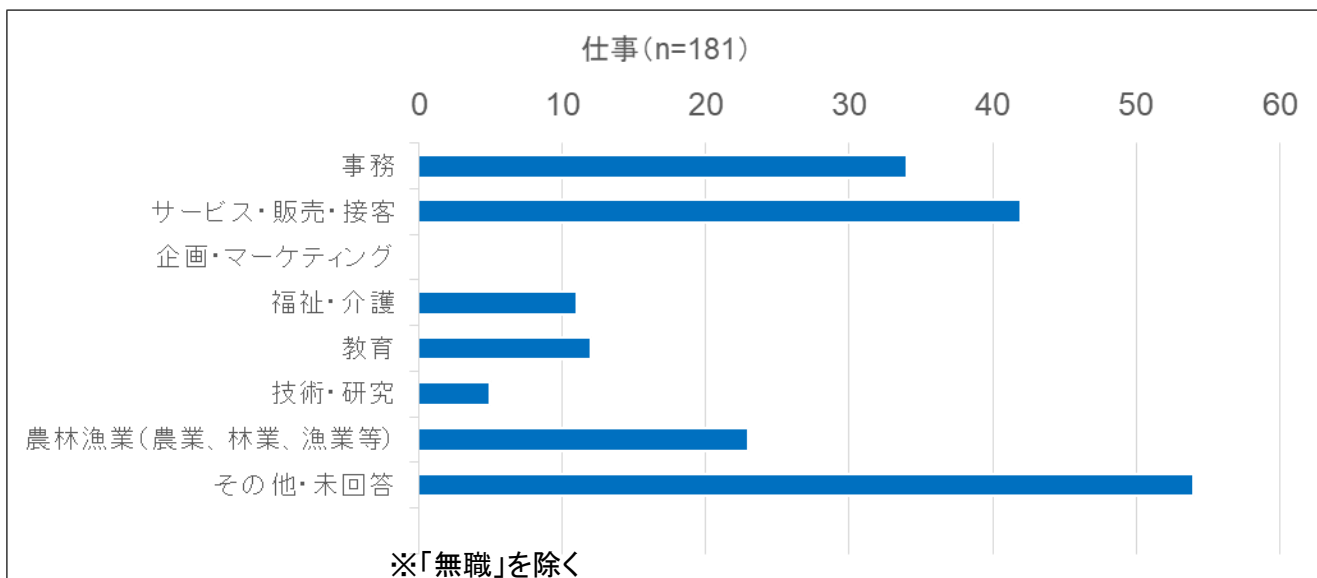
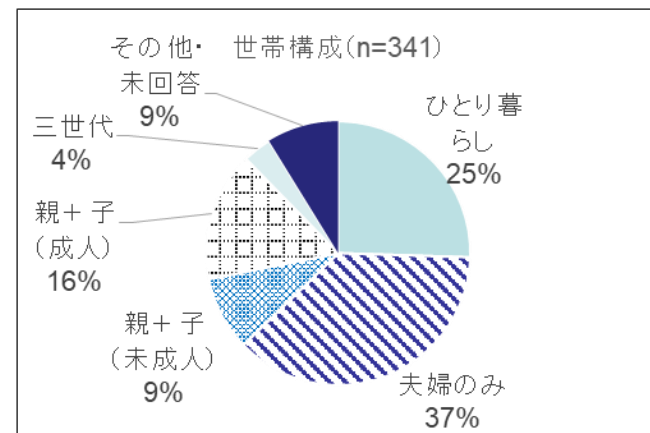
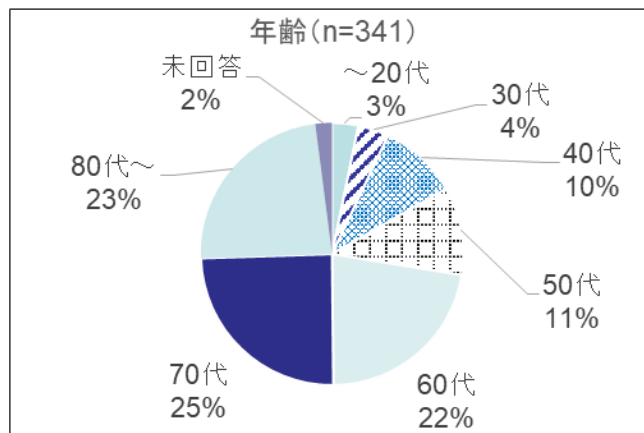
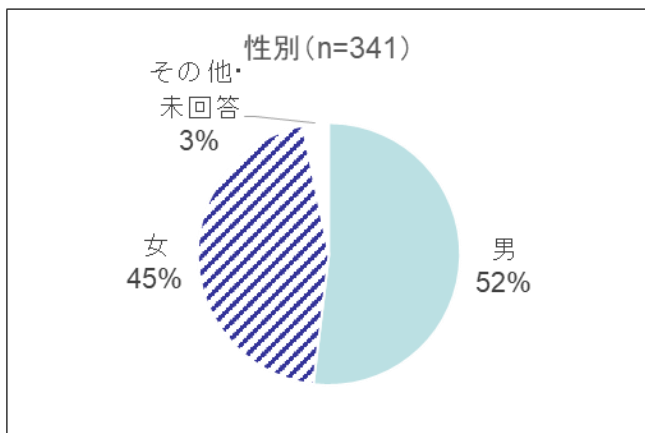
令和元年11月20日(水) 13:00~14:30
十津川村役場 第2会議室



<計画策定会議の様子>

参考資料3 村民アンケート結果(1/3)

- 令和元年10～11月に実施。
- 各地区を經由し、全戸へ配布。341名より回答

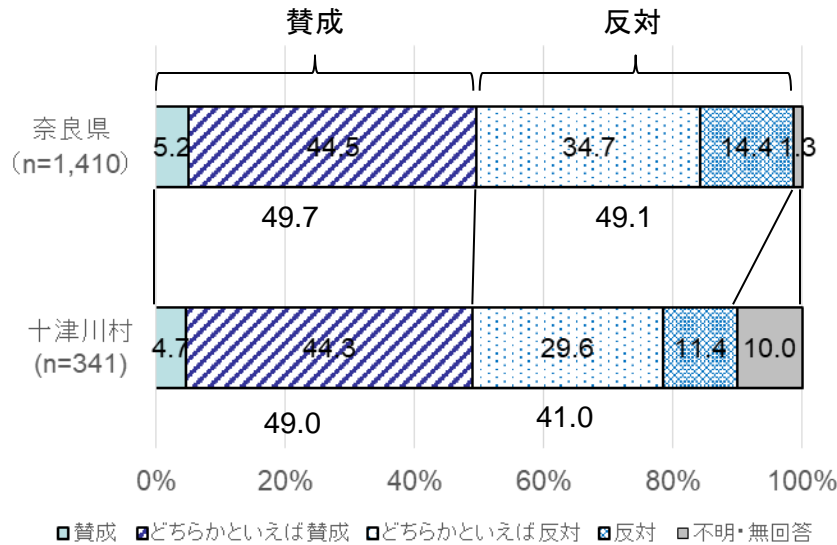


※未回答を除く

参考資料3 村民アンケート結果(2/3)

- 固定的性別役割分担意識を持つ人は男女とも奈良県全体とほぼ同じ。
(不明・無回答を除くと、賛成が過半数)

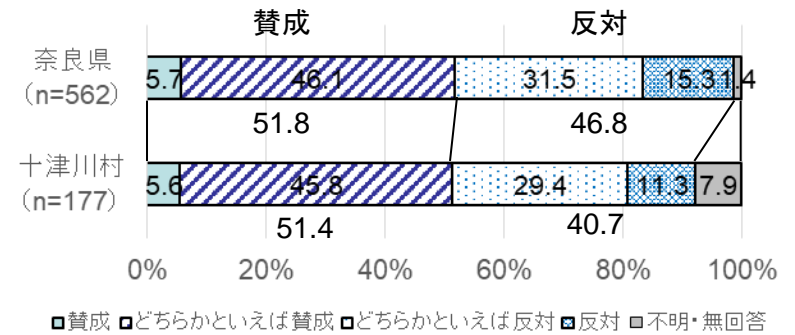
固定的性別役割分担意識(男女計)



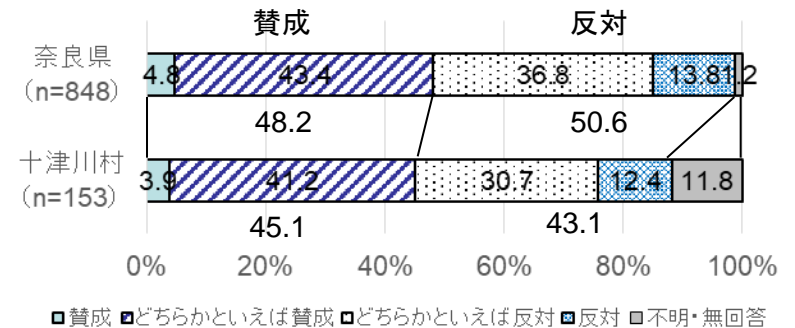
※奈良県:H26女性の社会参画に関する意識調査の結果

(四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある)

男性



女性



参考資料3 村民アンケート結果(3/3)

- 家事・育児は女性の役割と考える人が多く、実態もそのようになっている。
- 看護・介護については男女ともで担うべきと考える人が多いが、実態としては女性が担っている場合が多い。
- 自治会・町内会・学校関係の役員は男性の役割と考える人が多く、実態も男性が多いが、一部で女性が担っている場合もある。

